

エピペン講習会 Q & A (園・学校関係者対象)

エピペン注射について

Q) エピペンは誰が注射してもよいのでしょうか？

A)

エピペンは本人が注射できない場合、基本的にはエピペン注射の指導を受けたご家族、園や学校関係者が注射をすることができます。「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン 2019 年改訂版(厚生労働省)」、「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン令和元年度改訂(日本学校保健会)」に、エピペン注射を含むアレルギー症状への対応と備えについて記載されていますので参考にしてください。



保育所におけるアレルギー対応ガイドライン
2019 年改訂版 (厚生労働省)



学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン
令和元年度改訂 (日本学校保健会)

Q) エピペン注射の種類を教えてください。また、使用方法は同じですか？

A)

患者さんの体重によって薬の量が違います。携帯用のプラスチックケースのキャップで色分けされていますが、使い方は同じです。処方された本人用のエピペン注射を使ってください。



ヴィアトリス製薬ホームページから引用
<https://www.epipen.jp/teacher/index.html>

Q) エピペン注射を打った後、抜く時に力が必要ですか？

A)

エピペン注射を抜くときは、刺すときのように力を加える必要はありません。慌てず、ゆっくり抜いてください。

Q) エピペンを注射後、オレンジカバーが伸びていなかった場合はどうすればよいですか？

A)

使用後にオレンジカバーが伸びていない場合は、注射できていません。
もう一度、最初から手順の通りに注射をしてください。

Q) もし、判断を誤ってエピペンを使用した場合、投与された人に副作用はありますか？

A)

エピペン注射後は、動悸、脈が速くなる、血圧が高くなる等の症状がでることがあります。もし、症状がないときに誤って注射した場合や、患者以外に注射してしまった場合は、医療機関を受診してください。

アレルギー症状の対応について

Q) 乳幼児のアレルギー症状の対応を教えてください。

A)

アレルギー症状の観察、緊急性の判断、症状に合わせた対応はどの年齢でも同じです。しかし乳幼児のアレルギー症状では、患者自身がアレルギー症状に気付いて知らせ、症状の変化（悪化、改善）を言葉で伝えることが難しいという特徴があります。咳や皮膚症状のように周りから見てわかりやすい場合は、早く症状を発見できますが、アレルギー症状には口腔内の違和感や腹痛など、目で見てわからない症状もあります。食後に子どもの不機嫌が続く、ぐったりしている、あるいはいつもよりおとなしい、活動時間に寝る、顔色が悪いなどは、「何らかのサイン・訴え」の場合がありますので、全身の観察を行い、気にかけるようにしてください。

Q) エピペンを使用するかどうか迷うときは、どうしたらよいでしょうか？

A)

エピペンは緊急時用に備えておいても、実際には慌ててしまい、判断に迷うと思います。そのためにも、症状チェックシートを活用していただき、客観的な評価ができるようにしておくこと、園・学校内で定期的なシミュレーションを行い、職員の役割と動きをイメージし体験することで、対応しやすくなると思います。

Q) 動画教材ではゆっくりとチェックシートに沿って確認していましたが、どのくらい時間で確認したらよいでしょうか？

A)

エピペンの必要性の判断には**5分以上**かけないことが重要です。観察は慌てずに行ってください。判断に時間をかけ過ぎないことが大切です。

Q) エピペンの必要性を5分以内で判断するのは難しいと思います。どうしたらよいでしょうか？

A)

症状チェックシートを有効に活用することで客観的に判断ができますので、迅速な対応につながります。普段からシュミレーションを行っていただき、ぜひご活用ください。

Q) 内服薬とエピペン注射を同時に使用して大丈夫ですか？

A)

アレルギー症状があるときに臨時で使用する内服薬は、抗ヒスタミン薬やステロイド薬が一般的です。エピペンはアドレナリン製剤なので薬の作用が違います。同時に使用しても問題ありませんので、エピペンを使用する症状が出現したら、**内服薬使用の有無にかかわらず**、すぐにエピペンを使用してください。

Q) 内服薬を飲んだ場合、どのくらい様子を見てエピペンの必要性を判断するのでしょうか？

A)

内服後は、**5分毎**に症状チェックシートで症状を観察してください。内服後にチェックリストのレッドゾーンの症状に当てはまる、もしくは、明らかに症状が悪くなっているときは、エピペンを使用してください。また、内服直後に嘔吐し、嘔吐が継続するときは、エピペンを使用しましょう。一方で、内服後に症状が軽快している場合は、症状対応の目安を参考に観察を続けてください。

Q) 学校や園にエピペンを携帯している子どもがいる場合、消防署への情報提供は必要ですか？

A)

消防署への情報提供は必須ではありませんが、エピペンを所持するこどもの情報を園と消防署で共有することでスムーズな連携につながると思います。情報提供を検討される場合は保護者の了承が必要になりますので、保護者を含めて話し合いをしてください。

Q) 誤食が確認できなくても、症状チェックシートのレッドゾーンにあてはまる場合はエピペンを使用してよいでしょうか？

A)

エピペンを携帯している患者さんは、アナフィラキシー及びアナフィラキシーショックのリスクが高い患者さんです。原因食品の特定ができなくても、**レッドゾーンの症状**があれば使用してください。

Q) 症状チェックシートを見なくても、こういう症状がでていたらレッドゾーンの判断という重要なものがあれば教えてください。

A)

日本小児アレルギー学会より、以下の項目でひとつでもあてはまればエピペンを使用することが推奨されています（この指標を目安に症状チェックシートが作成されています）。

【消化器の症状】

- 繰り返し吐き続ける
- 持続する強い(がまんできない)おなかの痛み

【呼吸器の症状】

- のどや胸が締め付けられる
- 持続する強い咳込み
- ゼーゼーする呼吸
- 声がかすれる
- 息がしにくい
- 犬が吠えるような咳

【全身の症状】

- 意識がもうろうとしている
- 脈を触れにくい・不規則
- 尿や便を漏らす
- ぐったりしている
- 唇や爪が青白い